

氏名	大場良子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	成人看護学、がん看護学、緩和ケア、健康心理学				
学位	修士（カウンセリング）				
学歴	1995年埼玉県立衛生短期大学卒業、2002年青山学院大学文学部教育学科卒業、2010年筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程修了				
経歴	2004年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、2011年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本がん看護学会、日本ヒューマン・ケア心理学会（理事）、日本健康心理学会、日本カウンセリング学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、AYAがんの医療と支援のあり方研究会				

【2021年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	看護学入門9巻成人看護学II (執筆担当：第4章女性生殖器疾患患者の看護)	共著	あり	メヂカルフレンド社、 P408-437	小林寛伊監修、飯岡由紀子編集、 共著者：浜野久美子・秋山義隆・ 石川孝・戸塚康男・池田壽雄・亀 山周二・吉澤利弘・木村俊運・太 田峰人・館田一博・高松潔・白橋 真由・樋口敦彦・田中郁百・小川 真理子・杉山重里・橋本志歩・飯 岡由紀子・池口佳子・鈴木香緒 里・杉本知子・富田学・黒澤亮 子・中野真理子・大場良子	2021.11
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	炎症性腸病患者が日常で知覚する困り事とその対処法に関する予備的検討	共著	あり		Journal of Health Psychology Research.34 巻（ 2） p. 59-65	羽鳥 健司・小玉 正博・大場 良子
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	世代と立場を超えたスタッフ間交流における人材育成～垣根のない患者会活動から若年がん患者スタッフのライフデザインを応援する～	共同		第4回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会（オンライン）	小磯朋子・中野季里子・小濱京子・矢後綾子・河村裕美・大場良子	2022.3
2	「コロナ下における患者会活動」オンラインによるピアサポートとアフターコロナに求められる患者支援を考える	共同		第59回日本癌治療学会学術集会（オンライン）	内山由紀・河村裕美・矢後綾子・稲垣朱美・小濱京子・大場良子・木全明子・小磯朋子	2021.10
3	【シンポジウム】女性のがん体験者におけるがん治療後の外見変化とアピアランス支援に関する実態調査	共同		第59回日本癌治療学会学術集会（オンライン）	内山由紀・河村裕美・矢後綾子・大場良子	2021.10
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	特になし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			中堅看護師の教育力深化を目指したアクティブラーニング型研修の	研究分担者	2018.4～2022.3
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）			チームの納得を促進するための看護師のコーディネート力向上プロ	研究分担者	2019.4～2024.3

3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	小グループ学習法における総合的評価に資するピア評価の確立	研究分担者	2019.4～2023.3
4	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	AYA世代婦人科がん体験者における女性性の危機と再適応を促す因	研究代表者	2020.4～2024.3
5	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	炎症性腸疾患患者の寛解維持を支える健康心理学的援助プログラムの開発	研究分担者	2021.4～2025.3
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	がん看護	○	8	今年度はオンライン授業が中心であったが、リアルタイムで授業を行い学生との意見交換ができるように工夫をした。がん医療の基本的知識をはじめ、最新情報を盛り込み、講義だけでなく、事例検討の参加型授業も取り入れた。
2	理学療法学科_地域理学療法学演習		1	理学療法学科の演習授業において、緩和ケアとリハビリテーションについてオンライン講義を行った。
3	成人看護学Ⅲ		1	大腸手術後の機能障害をもつ患者の看護について講義を行った。
4	成人看護学Ⅴ		5	慢性疾患事例の看護過程演習として、PBLチュートリアルを活用したアクティブラーニングを行った。
5	がん看護学援助論Ⅰ		15	各授業における事例検討や課題に対する助言、意見交換を支援した。
6	がん看護学援助論Ⅲ		3	がんCNS課程3名を対象に、終末期がん患者、家族の意思決定支援における現状と課題を明らかにして、支援の在り方を検討することを目的とした。演習課題として①ACPを支援するご自身の意志決定支援を考察した。②提示した文献を読み、所属施設およびご自身の立場から考えるACPの現状と課題を明確にして、がん看護CNSとしての役割を検討した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	成人看護学Ⅲ		1	周術期の看護技術である、離床時のケアと寝衣交換の演習を行った。
2	成人看護学Ⅳ		1	クリティカル演習「心肺蘇生法」を対面およびオンラインにて実施した。オンライン演習では、講義以外に、一人でも実施可能なペットボトルを用いた心臓マッサージ演習を取り入れた。
3	がん看護学演習Ⅰ		30	がんリハビリテーションを必要とする患者と家族の体験を理解したうえで、がん治療がもたらす生活への影響と心理社会的ニーズを踏まえた支援方法を探求するため、文献検討、事例検討、コミュニケーション演習やファシリテーション演習を取り入れた。フィールドワークや模擬授業などの活動により、がんサバイバーの看護について考察する演習とした。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	成人看護学実習Ⅰ		2021.5～2021.6	3年生を対象にした急性期・クリティカルケアにかかわる実習である。本実習では臨地実習と学内実習を合わせて実施し、主に学内実習を担当した。
2	成人看護学実習Ⅱ		2021.5～2021.6	3年生を対象にした臨地実習である。4日間の実習と学内実習を合わせて実施した。主に臨地実習で指導を行った。
3	総合実習		2021.7	4年生を対象に、3週間の臨地実習において指導を行った。
4	IPW実習		2021.10	4年生を対象に、IPW実習のファシリテーターとして学習環境の整備とチーム活動を支援した。オンライン実習における教育支援を行った。
5	がん実践看護実習Ⅰ		2022.1～2022.2	がん看護専門看護師を目指す大学院生2名を対象に、訪問看護ステーションでの実習支援を行った。

(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2021.4～2021.12	主指導 4名	副指導 名
2	修士論文	2021.4～	主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 3名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研究会、公開講座等の講師				
	講演会、研究会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	新人教育担当（新カフス）研修	川口市立医療センター	「新人看護師を育てるとは」	2022.2
2	エデュケーションナース研修	自治医大附属さいたま医療センター	エデュケーションナース研修の一部として、PBLテュートリアル体験を実施した。	2021.11
3	第80回医学教育セミナーとワークショップwith 聖隷浜松病院	岐阜大学（MEDC）	「がん医療における多職種連携の要となるコーディネート能力とは」	2021.10
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	日本ヒューマン・ケア心理学会	理事（研修委員）		2020.4～2023.3
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	認定NPO法人オレンジティ	女性特有がん体験者（特に婦人科がん体験者）を対象にしたおしゃべりルーム（交流会）やアピアランスケアをオンラインにて4回/月開催し、ファシリテーターとして参加支援している。	2021.4～2022.3
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学長指定プロジェクトへの関与	Eプロジェクト研究「シームレスながん医療を促進するコーディネート能力向上プログラムの開発と有効性の検討」		2018.4～2022.3
2	学生支援	学年担任		2021.4～
3	学科等における委員会等	総合実習担当		2021.4～2023.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			